

地本退職者送別会開く



国労に所属していたことに感謝

NO. 648
発行
08・11月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部



守橋委員長 あいさつ



送別会というよりも激励会だ。来賓の方々から出席いただき感謝している。今年は17名の退職となった。本日は3名の方が出席できない。本日出席していただいた皆さんは42年間の鉄道人生になっている。区切りとしての会としたい。

公私ともに頑張ってきたことに、ご苦労様という気持ちだ。皆さんは昭和42年に国鉄に入社している。私も同様だ。大変な荒波の中、マル生での激しい攻撃、スト権スト、国鉄分割民営化の攻撃があった。

国鉄闘争は解決の兆しが見えてきた。国労は弾圧との闘いだ。激動だった。今もその情勢にある。闘えば前進していく。今、我々の前に広がっている。国労は政治の場でも闘っている。国労組合員として、この旗をしっかり守り後世に伝えていく。出向される人生は引き続き御支援、ご協力をそして後輩に対しての指導をお願いしたい。現状は厳しいが、お互いにおかれた立場でがんばっていききたい。大いに語り合い和やかに楽しんでいきたい。



地本退職者送別会が十一月九日新潟市『東映ホテル』で十一時より開催されました。今年十七名の方々が退職となり十四名出席されました。
地本書記の渡部さんの司会あいさつで開会し、はじめに守橋委員長のあいさつ、来賓では、退職者組合の石川議長、交通共済の高橋所長からあいさつがそれぞれあり



続いて感謝状と記念品の贈呈が行われ、退職者ひとりひとりからあいさつがありました。
退職者からの
あいさつでは
こんなに早く来るとはという感じだ。みなさんと運動をやったことに対して感謝している。足手まといにならないよう頑張っていきたい。
楽しみをしていた。三十八年間になる。退職まで国労にいられたのは先輩・後輩がいたからだと思う。最後まで国労にいられたことに対して皆さんに感謝したい。六十歳の人生をこれから頑張っていきたい。

退職者組合 石川議長あいさつ



退職者組合第37回大会で議長に選出された。国鉄闘争においてさまざまな闘いにがんばってこられた。心から敬意を表する。家族の方々においても感謝を申し上げる。

退職者組合に引き続き積極的に国労運動を取り組んでいく。ぜひ退職者組合に加入をお願いしたい。

交運共済 高橋所長あいさつ



出席された皆さんから、60年生きてきた重みを感じる。私は共済に入って26年になる。当時、執行委員会に出席させてもらって組合活動について理解していった。いろいろ運動に参加した。

国労は世の中の動きに対して運動し引っ張って来た。大変な状況だが、やっていこうと運動を進めている。退職者も、いろいろな運動へ参加し支えて欲しい。共済は退職後も基本的に扱いは同じだ。国労へも力を貸して欲しい。

十五歳のとき国鉄に入社した。四十一年十月だった。工場で国労に入った。楽しいこと、惨めなことなど多くあった。退職するまで国労にいられたことが良かった。ありがたいと思った。機関誌シグナルの取材でいろいろな職場へ行ったことが素晴らしい。



最後は国労組合歌

退職者、全員からのあいさつがそれぞれ続き、その後は各支部・分会代表から激励のあいさつがありました。
和やかな雰囲気が続く中、最後は国鉄労働組合歌を全体で肩を組みながら歌いました。



ご苦労様でした

